

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成 21年 11月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4075400327
法人名	ケア・サービス株式会社
事業所名	グループホーム かえで
所在地 (電話番号)	〒807-1307 福岡県鞍手郡鞍手町大字室木801番地 (電話)0949-43-3900

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年11月20日	評価確定日	平成21年12月1日

【情報提供票より】(平成21年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤(専任9人 兼務2人)非常勤9人	常勤換算10、2

(2) 建物概要

建物形態	単独	築 5年
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱費10,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または 1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成21年10月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81,9 歳	最低	60 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鞍手町立病院 ・医療法人笠松会有吉病院 ・日高歯科診療所
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームかえでには、四季折々の顔を見せてくれる楓の大木が庭の中央にあり、利用者、家族、地域の方の心を和ませている。ホーム長は、「ぬくもり、やさしさ、安心、そして地域とのふれあい」を職員に理解してもらい、利用者一人ひとりが安心して楽しく生活できるように支援している。玄関からリビングルームに入ると、利用者の自立支援を目指した様々な生活リハビリを職員と一緒に、にぎやかに行われ、広々としたウッドデッキでお茶を飲みながらの会話は、時間を忘れるくらいの素晴らしいひと時である。「徘徊ネットワーク」や「ふれあいフェスタ」に参加し、地域住民からの相談を受けたり、介護相談事業の講師を務めたりして、地域に根づいた活動をしている。利用者の健康管理は、かかりつけ医、提携医と日頃から連絡を密にとり、隣接事業所の看護師とも連絡や指導をしてもらい、利用者や家族が安心できる体制がある。また、近くの小学生との交流は年々活発になり、利用者の一歩の楽しみである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は、「権利擁護に関する制度の理解と活用」「家族への報告」「同業者との交流を通じた向上」「災害対策」の4件であった。管理者、職員の努力により2件は改善されている。今後は権利擁護に関する理解を職員全体に深めるとともに、災害対策として、地域の方の協力を得ながら夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎年外部評価受審の前に、職員一人一人が自己評価を実施し、日常の業務を改めて見直す機会にしている。管理者と職員は評価の意義を理解し、評価結果を全員で閲覧し、目標計画をたてて、改善に向けて努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、利用者家族、区長、民生委員、行政職員、他施設管理者、ホーム所長、職員が参加し、2カ月毎に定期的開催している。会議がマンネリ化しないように、毎回、新鮮な話題づくり心がけ、参加者が有意義な時間を過ごせるように様々な工夫を凝らしている。また、会議で出された意見は、ホーム運営に反映されるように努力している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関ホールに意見箱を設置し、苦情受付窓口を掲示し、いつでも苦情を受け入れる環境が整っている。管理者は「苦情対応」の研修会に参加し、内部研修会で職員に「苦情は宝」という考えを説明し、理解してもらい、家族来訪時等にも積極的に、要望や苦情を聴きだせるように努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の方が、気軽に訪問できる雰囲気のあるホームで、もちつき大会や盆踊り大会は、にぎやかで飛び入り参加の方もいる。利用者と職員は散歩の途中、近隣の方と親しく話したり、野菜の差し入れがあつたり、敬老会のボランティアによる草取りや、小学生と交流を重ねたりしている。また、「徘徊ネットワーク」に加入し、地域の相談も始まっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「こころ」を柱とし、地域に開かれた、地域に愛されるグループホームを目指すことを理念とし、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を大きく「書」にして、誰でも目に付きやすい玄関先やりビングに掲げるとともに、ホーム長、管理者、職員は、理念について日々話し合い、共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の徘徊ネットワークに参加し、近隣の小学校の運動会や行事に招待されたり、児童が年に3、4回ホームを訪れたり、交流が密である。また、地域の方が、季節の野菜の差し入れや、老人会の方が、ボランティアで、草取りを手伝ったり、地域との交流が深まっている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価、外部評価の意義を理解し、評価結果を回覧し、目標達成に取り組んでいる。今回の自己評価は、日頃のケアを改めて見直す機会として、職員全員で取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者家族、区長、民生委員、行政職員、他施設管理者、ホーム長、職員が参加し、2ヶ月毎に定期的開催されている。会議で出された意見は、ホーム運営に反映されるように努力している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の福祉イベント「ふれあいフェスタ」に参加したり、介護教室の講師依頼を受けて行政と協働しながら、地域全体の介護サービスの質の向上を目指して取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修を、管理者2人が受講し、制度について学び理解を深め、パンフレットなど資料も揃えている。	○	研修で持ち帰った資料をもとに、内部研修を行い、日常生活自立支援事業や成年後見制度を理解して、職員が、いつでも利用者や家族に説明できるよう準備していくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所便り「かえで通信」を再開し、出納明細書、利用料受領書と共に家族に手渡し、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置き、「福祉サービス苦情解決制度のご案内」のポスターを掲示し、家族が要望や苦情を出しやすい雰囲気作りに努めている。また、出された要望等はホーム運営に反映出来るように努力している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく、利用者とは馴染みの関係であり、落ち着いた暮らしが支援されている。職員の異動がある場合は、利用者への声掛けや見守りなどに配慮し、利用者のダメージを最小限に防ぐ努力をしている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用は、年齢、性別の制限はしていない。職員の仕事への想いを大切にし、職員の資格取得のため、シフト面など職員間で協力し合い、全員で応援している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	毎月のミーティング時にホーム長が、利用者の人権を尊重することの大切さを話し、職員全体の人権意識の向上に努めている。また、個人情報の管理についても、細心の注意を払っている。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近隣の病院主催の「食と排泄に関する勉強会」に、職員が交代で参加している。研修に参加した職員は、合同ミーティングで報告し、職員全員で共有し、介護サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の福祉イベントや介護教室に積極的に参加し、サービスの質の向上を図り、情報交換を行なう等、協力体制を築いている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者や家族が見学にきたり、見学が困難な場合は職員が、自宅に面会に伺ったりして納得した上で入居に至るようにしている。また、体験入居を通して徐々にホームの雰囲気に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、一人ひとりの能力や向上心を尊重した暮らしを共に送りながら、利用者から励まされたり、学んだり、同じ目線で支え合う関係を築いている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに寄り添い、希望や意向の把握に努めている。意向が困難な場合は、利用者の独り言、表情などから読み取ったり、過去の履歴や家族から話を聴いたりしながら、把握に努めている。		
チームでつくる利用者本位の介護計画					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意見、要望を聞いたうえで、毎月、ケアミーティングを行い、利用者がより良い生活が送れるよう、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアミーティングを行い、介護計画の見直しをしている。利用者に状態の変化が生じた場合は、その都度速やかに対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の病院の送迎や、個別の買い物の付き添い、ドライブ、外食など、利用者や家族のその時々要望に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を大切に、かかりつけ医の受診を支援している。緊急時には、24時間協力の提携医や、隣接の事業所の看護師に相談するなど、安心して適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者、職員は、利用者の状態変化に合わせて、家族や関係者と話し合い、共有している。重度化した場合の対応について、ホームでどこまで出来るのかを見極めている。また、現在は終末期への対応は行っていない旨の説明を入居時に行い、理解していただいている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を人生の先輩として敬い、処遇記録研修等にも参加し、言葉掛け、対応に気を配っている。また、記録などの個人情報の取り扱いにも十分に配慮している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールを決めてしまわずに、一人ひとりの体調や気分、ペースを大切に、本人の希望に添って支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所から頂いた野菜やホームの畑で採れた季節の野菜で食事を作ったり、台拭き、配膳、下膳など、一人ひとりの力を活かし利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けをしている。笑い声が溢れる楽しい食事風景である。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週3回である。入浴を拒否される利用者に対しては、時間をかけて声掛けをしたり、家族に協力してもらうなどして対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	俳句、カラオケ、トランプなど、思い思いの楽しみごとに興じたり、食事の準備や洗濯物たたみなどの役割を通して、その人らしい暮らしを支援している。また、職員の飼い犬の世話を交代することも、利用者の楽しみの一つになっている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの体調や希望に合わせて、ホームの周りを散歩したり、天気の良い日には、広々としたウッドデッキでお茶を飲んだり、中庭の畑を見に行く等、戸外で過ごす支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員は利用者一人ひとりの癖や行動を熟知し、見守りながら支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いで、避難訓練を行い、避難経路、避難場所の確認を行っている。	○	夜間を想定した避難訓練を地域住民の協力を得て実施し、災害に備えて、飲料水、非常食、毛布などの備蓄が望まれる。
実施					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量を記録し、利用者一人ひとりの状態を職員全員で共有し支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には、利用者が月1回のフラワーアレンジメント教室で作った花が飾られている。また、晴れた日にはお茶を飲んだり、洗濯物を干したりする広々としたウッドデッキと、その先の中庭に立つ紅葉した大きな楓の木や畑は、利用者が季節や自然を感じながら居心地よく過ごせる共用の空間である。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の協力を得て、使い慣れたタンスやテーブルなどが置かれ、写真や絵や花など好みのものが飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		